

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

スムーズに事業承継するための「4つの承継」 佐竹 隆幸 (関西学院大学教授)

1. 技能は「継承」と言いますが、事業は「承継」です。書いて字のごとく、技能は継いでから承る、要は技術を身に付けてから後継者になるのに対し、事業は承ってから継ぐ、すなわち後継者になることを決断してからさまざまなことを学んでいます。スムーズに事業承継をするためには、「4つの承継」を進めていくことが重要です。
2. まず会社の理念を承継し、次に経営の承継を行う。経営の承継とは、従業員や顧客、取引先、金融機関というステークホルダーとの関係について理解し、信頼関係を構築することです。そして株式や債務を含めたガバナンスの承継、最後が会社の歴史の承継です。自分の父や祖父、あるいは先代社長がつくり、発展させてきた会社の歴史を知らない誰もついてきません。4つの承継を行っていくうちに、頼りなさそうだった後継者が成長していく姿をたくさん見てきました。
3. ただ、4つの承継はやみくもに進めればよいというものではありません。経営計画と同様、「いつまでにこれを達成する」と計画を立てて進める必要があります。計画を立てずに何となくやっていると、それこそ新型コロナのような突発的な事態が発生したときに腰砕けになってしまいます。後継者が事業承継を決断し、4つの承継を行うには10年ぐらいかかります。1、2年でできるという話を聞いたことがあるかもしれませんが、それは事業承継の一部を取り上げているにすぎません。

(参考:「週刊東洋経済」2020年8月1日号)

ワンポイント経営アドバイス

公心を持つ (松下幸之助)

上甲 晃 (志ネットワーク代表)

1. 「松下幸之助発言集」の中で松下幸之助が繰り返し言っているのは、初めからこういう会社にするんだとか、大きくしようということはほとんど考えたことがなかった。とにかく毎日毎日、足元のことをきちんとやる。それだけを一生懸命やってきたということです。世間様が大きくしてくれたと言っています。まず朝起きて、一日やることをやって夜寝る時に、朝よりもこれだけ成長したと満足して一日を終える。その連続だった。与えられた命のこの瞬間を、しっかり生きる。
2. 松下幸之助に一貫しているのは、「どんな時でも、見方を変えればすべてチャンス」ということだと思います。その中で、「周りの状況が悪くなると、ついつい弱々しい心になる。経営者はそういう弱々しい心では絶対あかん。断固としてやるべきことをやる」。「天下を思うような気持ちがなければ、普通の知恵は出ても本当の知恵は出てこない」、要は公心を持って取り組めば、必ず物事はうまくいくと。

(参考:「致知」:2020年10月号)

人事・労務について

ジョブ型雇用への移行 (日立)

1. 多くの企業が採用している「メンバーシップ型雇用」では、「適材適所」が基本で、ジョブ型は「適所適材」が基本となる。メンバーシップ型は起点となるのが従業員(人)だ。会社は人に仕事を割り振る考え方をする。そこには終身雇用という前提があり、ゼネラリストを育成するという大方針がある。社内で年に1度行われるジョブローテーションは、メンバーシップ型の雇用政策の代表的な慣習といえるだろう。
2. 一方で、ジョブ型は起点となるのはあくまで仕事。会社はその仕事に最適なスキルと経験を持つ人材を任命する。その際、年齢や社歴は関係ない。もし社内に最適な人材が見つからなければ、外部からヘッドハントすることもいとわない。終身雇用や年功序列とは無縁の制度なのだ。日立はこうした日本型雇用制度とは正反対ともいえる制度を全世界で運用している。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年8月1日号)

古典に学ぶ

修養で聖人に近づく

(解説) 修養とは身を修め養うということにて、練習も研究も克己も忍耐もすべて意味するものです。人が次第に、聖人や君子の境涯に近づくようにつとめることとなります。つまり人は十分に修養したならば、一日一日と過ちを去り善に移りて聖人に近づくのである。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)